

平成 27 年度 安曇野市中学生海外ホームステイ交流派遣事業

参加体験文集



平成 28 年 3 月 19 日(土)から 3 月 28 日(月)

安曇野市・安曇野市教育委員会

平成 27 年度 安曇野市中学生海外ホームステイ交流派遣事業

1 目 的

本事業は、グローバル化する国際社会に対応できる人材を育成するために、市内の中学生が海外ホームステイを行うことにより、国際感覚を養うと共に英会話能力の向上と、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成することを目的とします。

2 派 遣 先

オーストラリア メルボルン

3 日 程

平成 28 年 3 月 19 日（土）から平成 28 年 3 月 28 日（月）までの 10 日間

月 日	日 程
3/19(土)	出発（安曇野市役所） 成田空港⇒メルボルン国際空港⇒ホテル
3/20(日)	ウェルカムパーティー（ビーチにてオーストラリア式 BBQ） ホストファミリーと対面 ホストスクール(Stella Maris Primary School)校長紹介、引率者挨拶 終了後、各ホストファミリー宅へ移動 【ホームステイ】
3/21(月) ～3/23(水)	Stella Maris Primary School(小学校)で通常授業に参加 ホストスクール主催の送迎会へ参加 【ホームステイ】
3/24(木)	Parkdale Secondary College(中高等学校)で交流 市内見学 公共機関を使って市内を移動 Queen Victoria Market でオーストラリアの食文化を体験 【ホームステイ】
3/25(金)	観光 Wildlife Park でオーストラリアの動物との触れ合いを体験 Sovereign Hill でゴールドラッシュ当時のオーストラリアの歴史や当時の街並み、生活を体験 【ホームステイ】
3/26(土)	各ホストファミリーと生徒が観光、ショッピング等で1日を過ごし、生きた英会話を習得 【ホームステイ】
3/27(日)	ホストファミリーとお別れ メルボルン国際空港⇒成田空港
3/28(月)	到着 成田空港着⇒安曇野市役所

4 参加者

市内中学校 7 校の生徒 14 名及び安曇野市教育委員会以下引率 2 名

引率者：安曇野市教育委員会 藤澤一渡

豊科北中学校教諭 加藤悦子

5 作文目次

伝わる喜び ～相手を想えば～	豊科南中学校 3 年 3 組 横川伊吹	P2
慣れない土地で	豊科南中学校 3 年 1 組 入山未久	P3
不安からの変化	豊科南中学校 3 年 2 組 森下琴未	P4
知らない言語の土地で	豊科北中学校 3 年 4 組 須山ミレナ益美	P5
FUN! AUSTRALIA!	穂高東中学校 3 年 4 組 西尾 遥	P6
ホームステイで学んだこと	穂高東中学校 3 年 1 組 小林あかり	P7
Life in Melbourne	穂高西中学校 3 年 1 組 鈴木日花里	P8
ホームステイに行って学んだこと	穂高西中学校 3 年 3 組 赤羽未彩	P9
言語は体で学ぶ	穂高西中学校 3 年 1 組 増田敬翔	P10
自分への挑戦	三郷中学校 3 年 6 組 塚田亜純	P11
人の温かさに触れた十日間	三郷中学校 3 年 6 組 小谷雪乃	P12
オーストラリアへ行って変わった自分	三郷中学校 3 年 5 組 野本恵希	P13
国境を越えてつながる	堀金中学校 3 年 2 組 高山和音	P14
海外ホームステイで学んだこと	明科中学校 3 年 1 組 関 穂乃香	P15

伝わる喜び ～相手を想えば～

豊科南中学校 3年3組 横川 伊吹

「自分の喜びは相手の喜び、相手の喜びは自分の喜び」これは、日本でも感じられるのでは？と、思うかもしれませんが、私が今回感じたのは、このホームステイを通じて、「普段とは異なった言語を話す」ことによって感じられたものです。

数日経ったある日、「洗って干してもらった服を取り込みたい」と、ホストマザーに、単語とジェスチャーで伝えたのですが、上手く伝わらず、「分からない」という表情をしていました。しかし、何度も TRY し伝えることが出来ました。その瞬間の、ホストマザーの表情は嬉しそうに、「分かったよ」と伝えてきました。これは、自分の努力と、相手の聞こうとしてくれた努力の小さな結晶でした。伝わった事は私の大きな喜びでしたが、同時に、相手の喜びでもあったようです。確かに、私もホストスクールで、現地の子達が言っている事が分かる嬉しかったです。この経験は、普段と「同じ言語」ではなく、「違う言語」を話しているからこそ、強く感じられたのだと思い、「伝わる」ことの喜びは万国共通だと実感する経験でした。又、相手を想えば、「伝わる」「伝わってくる」ものは、多いことも知りました。

私には、後悔と良かったなと思える事があります。それは、「話し掛けられないと、話し掛けることが出来ない」ということです。つまり、「話し掛けられれば、話し掛けることが出来る」ということです。文法なんて全く気にしていませんでした。このように、改めて自分を知り新たな課題も見つかりました。

このような経験を生かし、一つ目に、来日した外国人が安心して観光してもらえる様に、観光地の見所や案内など、「こんな情報が手に入ったら良いな」と思う事を看板などにして、安曇野や日本を楽しんでもらえるようにしたいと思います。

二つ目は、「海外で書道の先生」をやりたいと思います。ホストスクールで書道を教えた時、とても喜んで、「やろう！」としてくれた事が、とても嬉しかったからです。

以上のように、自分がこんなにも貴重で素晴らしい経験をし、自分の方向が発見出来たのも、安曇野市教育委員会の皆様、株式会社テヅカ様、現地の方々、学校の先生方々、両親等、多くの方々のお陰である事に感謝をし、今後に生かしていきたいと思います。

この度は、本当に有難うございました。私は必ず、安曇野市やグローバル化する日本に役立つ人材になります。

慣れない土地で

豊科南中学校 3年1組 入山 未久

私は今回のホームステイでとても貴重な体験をすることができました。

オーストラリアに行く前は、ホストファミリーや現地の小学生に私の英語は伝わるのかなとコミュニケーションの面では心配でした。

しかし、メルボルンの空港に着き、周りの景色が「英語」に変わるとこれからの生活への期待が膨らみました。

初めてホストファミリーと会った時、英会話レッスンで聞いた英語とは違い、とても速いスピードでなかなか聞き取れずにいる私に、何度もゆっくり話してくれました。その優しさを感じ、私はこれではダメだと思い今まで学んだ単語を使いたくさん会話をするように心掛けました。

だんだん慣れてくるとすばやく理解することができるようになりました。

すると、会話もより一層楽しみながら過ごすことができ、私の思ったことが伝わり答えてくれると会話をする上での自信になりました。

三日目からは学校が始まりました。最初は、みんなの言っていることがわからなかったらどう接していけばいいのだろうと思いましたが、みんなとてもフレンドリーで言葉が通じなくてもジェスチャーなどで伝えてくれました。

授業でも一人ひとりが自分の考えを自由に発言していて、とても自由な感じの授業でしたが自分の意見をみんなの前で言い一人ひとりの意見を尊重していくことはとても大切なように感じました。

オーストラリアの学校にはお昼のほかにおやつを食べる時間を設けられていました。

ランチボックスは日本の給食のような感じではなく、簡単に食べられるものが多いのですが、食べる時間も短かったのも、みんなは間に合うのかなと心配になりました。間に合わない子は食べ物を持ったまま遊んでいて、日本では食べ物を食べながら遊んではいけないのでとても驚きました。

休み時間は日本より長い時間あり、みんなバスケットボールやサッカー、遊具で遊んでいました。

オーストラリアの子は、ジムやバスケットボールのクラブに通っている子が多く遊具で遊んでいるときは、鉄棒技やシュートを見せてくれました。

私は、あまり積極的に自分の得意なことを見てほしいと言うことはないので自分を表現できていていいなと思いました。

今回のホームステイで日本以外の文化に触れ、以上のような経験がたくさんできました。そして、自分の英語に自信が持てるようになりました。

今までは、自分の英語にあまり自信がなかったので、ホストファミリーや現地の小学生と会話しているうちに、自分の思っていることを伝える楽しさを味わうことができました。

今では、自信を持って授業に取り組むようになり、難しい問題などに取り組んだりし、英語をどんどん学ぶようになりました。

ホームステイでお世話になった方々への感謝を忘れずにこれからの生活に役立てていきたいと思います。

不安からの変化

豊科南中学校 3年2組 森下 琴未

3月19日から28日までの十日間、オーストラリアのメルボルンへホームステイに行かせていただきました。私は外国に行くのは今回が初めてで出発前は不安と期待が入り混じった感情でいっぱいでした。しかし行ってみると不安はすぐに消え、ホストファミリーと一緒にいった仲間と充実した十日間を過ごすことが出来ました。その中で、驚いたことや気づいたことが主に二つあります。

一つ目は日本との違いです。特にメルボルンの小学校では驚きの連続でした。おやつを食べる時間があったり、学校の図書館を利用せず街の図書館へ行ったり、啞然とすることばかりでした。また、日本の学校のように数学や理科などではない授業が多くありました。さらに、授業でノートをとっている人は一人もいなく、宿題はパソコンで提出などと日本では信じられないこともありました。街の中でも、車は当たり前のように道に止めてあり、自転車に乗る時は大人もヘルメットをしないといけないことなどにも驚きました。食文化にも違いがあり、メルボルンではサラダなどの副菜を食べることが少なく、主食や主菜だけということが多くありました。

二つ目は英語での会話についてです。初めてホストファミリーと話した時は全くなんて言っているか理解することができず、質問などに答えることができませんでした。しかし二、三日たってやっと少し聞き取れるようになり、質問にもあやふやながらも答えることができるようになりました。けれども小学生の話す英語は速くて聞き取れないことが何度もありました。そんなとき、単語や動詞さえ聞き取ればだいたい何について言っているのかが分かることに気が付きました。また、私は文法を間違えないように話さないと伝わらないかなと思ひ、考えながら話すようにしていたためあまり会話が弾みませんでした。あるとき、どうしても文法が分からず、単語だけを適当に並べて会話をしました。すると、単語だけでも相手に伝わり、会話がどんどん進みました。

今回のホームステイで、メルボルンの人たちは大人も子供も自由に生活しているということを感じました。そして、その中で十日間過ごしてみて、私は自分の小さな変化に気づきました。ホームステイに行く前は英語を話すことや外国人と話すことに恐怖を抱いていました。「間違えたら、伝わらなかつたら怖い。」そう思っていました。けれど、実際に話してみて、考えて喋った英語が相手に伝わり、会話ができるようになったときの喜びを感じることが出来ました。出発前にあった不安はすっかり消えて、今はもっと英語を話したいと思うようになりました。思い出と少しではあるけれど私自身の変化、文化の違いなどのいろいろなことを自分の目で見て知ることが出来ました。本当にありがとうございました。

知らない言語の土地で

豊科北中学校 3年4組 須山 ミレナ 益美

3月19日土曜日、多くの不安を持ちつつもワクワクした気持ちでオーストラリアのメルボルンに降り立ちました。「英語が理解できるか」「英語は伝わるか」ほとんど出発前から出発してからもこの不安しか抱えていませんでした。

市内観光を終え、welcome パーティーへと向かうバスの中では、ホストファミリーと会うだけのことなのに緊張で心臓がはち切れそうだったのをすごく覚えています。海に着いたとき、私のホストファミリーはまだ来ていませんでした。しばらく待っているとホストファミリーが来ました。会ってすぐホストマザーは「アレルギーはないか」とか「嫌いなものはないか」とか私を心配して沢山話してくれましたけれど、緊張でガチガチだった私は話していることがあまり理解できず笑って返すことしかできませんでした。その時は近くにいた加藤先生に通訳をしてもらってやっと理解して、yesとかnoとか言葉で返答することができました。その後オリビアとマディーは「どんなゲームが好き?」とか「海に行こうよ」とか色々話しかけてくれたけれど、しばらくはあまり理解が出来なかったので勘でyesとしか答えることが出来ませんでした。

welcome パーティーの時はそんな状態だったので、完全に周りの言語が英語となるホストファミリーの家へ行くときは「正直こんなだけれど大丈夫かなあ」とすごく心配でした。だけれど実際にホストファミリーの家へ行ったときは、英語は理解できるのかと心配していた自分が何だったのかと思うほど英語が理解できて、初めて意味が分かったときは「理解できたあ」と自分で感動するほどでした。行くのがすごく怖かった小学校も早く色々な人と話したい!と思うぐらい楽しみな場所へと変わりました。

21日月曜日、登校一日目の日でした。楽しみだったけれど少しの緊張もありました。私はオリビアと同じ六年生のクラスへと行きました。教室に入ると、みんなは私のことを知らないはずなのに、すごくフレンドリーで気軽に挨拶をしてくれたので私はすごくいい気持ちで最初の日を迎えることが出来ました。みんなとても親切で学校案内をしてくれて嬉しかったし喋っている内容もちゃんと理解できたのでスムーズに会話をする事が出来ました。10時ぐらいになってベルが鳴った瞬間みんなお菓子を食べ始めたので驚いていると、オリビアに「これはいつものことで普通だよ」と言われすごく文化の違いを感じました。ほかにも先生が話をしているときに普通に挙手をして自分の意見を言っているのを見てすごいなあと思いました。そのすごく自由な学校の様子を見ていると日本の学校の様子はすごく堅苦しいなと思いました。少しは外国の教育方法も取り入れてほしいなと思いました。日本の学校紹介の時に私の学校では携帯、タブレットは使っていないということを言うとすごく驚かれてここでも文化の違いを感じました。

今回のホームステイ体験で多くの日本との文化の違いを学ぶことが出来ました。英語力に自信がない私もなんの問題もなく十日間を楽しく過ごすことが出来、知らない言語の土地に来て現地の人と会話をする事が出来るということが一番学ぶことが出来ました。予想以上にいい体験をすることが出来ました。

FUN! AUSTRALIA!

穂高東中学校 3年4組 西尾 遙

今回のホームステイ。それは、「長かった」とも「たったの」とも言える十日間でした。その十日間は初めてのことばかりで、毎日発見や学びがありました。また、自分の価値観が大きく変わっていくのを感じました。

まず、私は初飛行機、初海外だったので空港だけでも大騒ぎ。はしゃぐこと十時間、メルボルンに降り立ちました。

初めての異国の地は、やはり全然日本とは違ってただただ圧倒的だったのを覚えています。次の日ホストファミリーと対面した時、私のホストファミリーは誰よりも早くこちらへ来て、いきなり「Welcome AUSTRALIA!」と高らかに言ってくれました。とにかく驚きましたが、一気に緊張がとけました。その後、ホストマザーの言葉ですごく心に残ったものがあります。話しかけられた英語が全然わからなくて、「Sorry」と言った時。「あなたは英語が上手なくて当然。私も日本語は全然わからないもの。だから謝らなくていいのよ。」と、優しく言われました。今回、私が心配していたのはコミュニケーションのことでした。英語が苦手なため、実際に英語で生活するまでは「英語話せないけれどどうしよう。」とずっと言っていました。しかし結論としては、向こうの人は誰も、私に上手な英語が話せることを求めていませんでした。

私が現地で話していた英語はボロボロだったと思います。しかし、ホストファミリーはもちろん学校のみんなも、私の拙い英語を最後まで聞いてくれました。ですから、間違いを恐れず話すことができました。また、どんなに話せなかがろうが、話さないと何も始まらない。そのことに気付いたのも、とても大きかったです。とても困ったり焦ったりしましたが、私は英語でたくさん話をすることができました。

ホームステイの十日間、日本との多くの違いを発見しました。しかし一方、変わらないものもありました。例えば、学校のみんなの会話。私にはとてもゆっくり話しかけてくれますが、現地の子同士で話すスピードはとても速いので、会話はほとんど聞き取れません。しかし、「この鉛筆かわいいでしょ?」とか「こうするといいと思うよ。」とか、見ている分かるものもたくさんありました。

私とは生活も言葉も全く違うみんなですが、話す言葉が違うだけなんだ、根底は同じなんだ、ということを知りました。

帰りの飛行機で、メルボルンの美しい夜景が見えました。その灯り一つひとつに、誰かの日常が詰まっていると思うと、世界はまだまだとても広く、自分がとてもちっぽけに感じられました。

ホームステイに行ったことで、言葉の壁をリアルに体験しました。それによる不自由はたくさんありました。しかし、それは決して大きな壁ではないと分かりました。これは、日本にいたら学べないことだと思います。この十日間は、私の一生の思い出と教訓になります。本当に行つて良かったし、願わくばもう一度あの地を踏みたいと思います。

ホームステイで学んだこと

穂高東中学校 3年1組 小林 あかり

私は出発前、このホームステイを通し『英語を話せるようになる』これを一番の課題としオーストラリアへ出発しました。もちろん、自分の英語が現地で伝わるのかと心配もありましたが、帰国したら英語がかなり話せるようになっていだろうと期待もありました。実際帰国してみるとリスニング能力はかなりついていましたが、話すとなると出発前とあまり変化しませんでした。

しかし、私は今回このホームステイでもっと大切なことを学びました。

それは、自分の考えを人に伝える、返事をはっきり言うということです。

日本の学校は大抵みんな静かに先生の話聞き、決まった子だけが毎回手を挙げています。それに比べオーストラリアの私たちが行った学校は、授業中静かになることはほとんどありません。常に誰かが手を挙げ、自分の意見を述べようとしていました。ホストスクールにはたった三日間の滞在でしたが、自分の考えを人に伝えるというのはとても重要で、日本人が一番苦手な部分だなというのを感じました。

オーストラリアに滞在しているとき、ホストファミリーやホストスクールでよく質問される機会がありました。初めのうち私は、曖昧な返事をしてしまったりして自分の意思が伝わらなかつたりしてしまい、少し戸惑ってしまいました。少しずつ慣れていき、ホストマザーに食事の時「enough?」と聞かれると「はい、大丈夫です」や子供たちに「外行こう」「一緒に遊ぼう」など簡単な問いかけに Yes, No をはっきり伝えることが出来ました。そして一緒に過ごす間にも、どのタイミングでどんな返事を使うかというのが分かってきて、五日も過ぎると簡単ではありましたが会話が出来るようになりました。

今回のホームステイで私は自分の意思を相手に伝えるためには思っているだけではなく、自分の口から伝えることはとても重要だということを知りました。

こうして多くのことを学んだ一方課題も残りました。それは英語で物事をもっと詳しく伝えるということです。

寿司を作っていたとき「これは何?」「これどうするの?」と聞かれ、単語を並べてどうにか説明しましたが、詳しい説明が出来ませんでした。日本の文化を英語でもっと詳しく説明したいと思いました。

私はこの反省を生かし、英会話にもっと磨きをかけ、そして世界で活躍できる人を目指し、この体験を今後の生活に活かしていきたいと思っています。

私はメルボルンでのホームステイから、かけがえのない多くのことを肌で感じ、学ぶことができました。ホストファミリーと本当の家族のように語り合い、気持ちを分かちあったこと、ホストスクールで学年関係なく遊び、学び合ったこと、初めて道で会った人と飼い犬の話に花を咲かせたこと、異国の地で経験したすべてのことは、私にとって忘れられないものとなりました。中でも特に印象に残った体験を紹介します。

私がオーストラリアでまず感じたことは、そこで住む人たちの人懐こさです。私がホストファミリーに「長野県の安曇野に住んでいる。」と伝えると、今年の冬に白馬でスキーをしたことやそこで日本のテレビに取材をされたことをとても嬉しそうに話してくださいました。そして、私が覚えたてのオージー英語で話しかけると、“Well done!”や“You are clever!”と信じられないほど褒めて頂き、話しかけて良かったと思いました。また、ホストスクールではクラスの一人ひとりに名前を尋ねていると、好きな日本のアニメなど自分の知っている日本のことを本当に沢山話してくれました。これらのことからオージーの親しみ深さを感じ、多くの人と様々なことを英語で話している中で「世界から見た日本」に出会うことが出来ました。

次に感じたことは、学校生活の送り方の違いです。学校でおやつ時間が確保されていることはもちろん、授業中にいつでも自分の考えを発言し、まるで大人のように根拠を示しクラスメートと話し合う姿は小学校三年生には思えず、感心させられました。しかし、そんな自由なスタイルの中にもおやつは交換してはいけない、相手の意見を尊重し合うなどの決まりを当たり前のように守っていて、普段から自由な空間にあるからこそ決まりを守ることが出来ているのだと思いました。他人に左右されず、勇気をもって自分の信念を貫く Stella Maris の子供たちに多くのことを学びました。

登校最終日、クラスメートたちから「ひかり、来年もまた来てくれる？」と言われ、私は涙をこらえることができませんでした。そして、私は「いつかまた会おうね。」と言い、全員とハグをし、別れを告げました。

そして今、私には夢があります。日本と諸外国との結びつきを強め、双方にとってのより良い道を探し続ける、外交官になることです。このホームステイ事業で得た文化、言葉、考え方の違いを超えた「繋がり」を将来の夢へとつなげ、外交官として世界で活躍できる人間になりたいと思います。

ホームステイに行って学んだこと

穂高西中学校 3年3組 赤羽 未彩

私はホームステイに行き、大きく三つのことを学びました。一つ目は「会話」です。ホームステイに行く前一番不安だったのが英語での会話でした。最初、ホストファミリーに話しかけてもらっても想像以上に速い英語で、何を言っているのかほとんど聞き取ることができませんでした。しかし、そんな私にホストファミリーはゆっくり話しかけてくれたり、ジェスチャーを使って私がわかるまで説明してくれました。そのおかげで二日目からは、内容を理解するのにそこまで時間がかからなくなり、ホストファミリーとたくさんの会話をすることができました。お互いの言葉が通じ合ったときは、おもわず泣きそうになってしまうくらい嬉しかったです。

二つ目は「文化の違い」についてです。最初の三日間現地の小学校に通いました。そこで一番最初に思ったことは、日本より自由だ…ということです。日本の授業ではみんないすに座り、先生が黒板に書いたことをノートに写すといった形で勉強をしています。しかし、現地の学校では最初に先生が少し話すだけでそのあとは、子供たちがパソコンやタブレットを使って勉強を行っていました。他にも授業と授業の間におやつを食べる時間があるなど、日本とは違った習慣がたくさんありました。

三つ目はホームステイ全体を通して「勇気を出すことの大切さ」を学ぶことができました。例えば自分からホストファミリーや、現地の小学生に話しかけようとするとき言葉が違うため、ためらったりすることが何回かありました。でも、そのときに勇気を出して話しかけたことでちょっとした会話が生まれたり、新しい発見があったりしました。それはとても嬉しいことでした。これからも何かしようと思うとき必ずためらったりすることがあると思います。そのときは今回のことを思い出して勇気を出そうと思います。

今回のホームステイでは、ここに書ききれないくらいたくさんのことを学ぶことができました。私はこれからも英語を真剣に勉強して、将来海外に関係のある職に就きたいと思っています。そして今回縁あって出会ったホストファミリーとは、これから先も連絡を取り合ってまた会えれば良いなと思っています。

ホームステイの事業に携わって下さったみなさま、本当にありがとうございました。私にとって、とても貴重な体験となりました。

言語は体で学ぶ

穂高西中学校 3年1組 増田 敬翔

僕は十日間でたくさんの方に驚きました。まず、ホストハウスに着いて驚きました。土足で家に入るということです。とても戸惑いながら、土足のまま家に入りそのままカーペットを踏みました。それにプラスして、カーペットに普通に寝転ぶという点です。ほかにも、あまり手を洗わないことや、子供たちは片付けずに次の事をするなどにいろいろあり、日本人との考え方に大きなギャップがあると感じました。以前から聞いていたとおり、大らかと言うか小さいことは気にせず、生活になれるまでに時間がかかりました。

また、現地の小学校へ三日間体験入学し感じたのは、オーストラリアの小学生は日本の小学生とは違い、とても活発的で自発的に意見を述べていることでした。しかし、遊んでいる様子などは全く変わりなく、元気すぎると感じるぐらいでした。小学生たちは日本の事に興味津々に話しかけて来ますが大人とは違いとても速く、英語に慣れていない僕の耳にとって聞こえづらいなあと感じることもあり、すべてを聞き取り、理解することは難しいことでした。

ホームステイをして体感しましたが、英語にも訛りと言うものがあり、例をあげると、できないという意味を表す can not はアメリカ英語ではキャントと言うのですが、オーストラリア英語ではカントという日本人に発音し易い発音でした。学校で習っているのはアメリカ英語ですが、オーストラリア英語は聞きなれておらず訛りには苦労しました。

六日目、日本で言う中高一貫校の見学へ行きました。中高一貫校だけあってとてつもなく広くて日本とは違う点がたくさんありました。特に、すべてのクラスに5台程度パソコンが置いてあることです。普通日本の学校で生徒が触れることができるパソコンは特別教室に置いてあるだけで、ほかのパソコンは生徒が触れることはできません。オーストラリアの小中高校では、毎日全員が触っていますが、日本では1年に数回しかありません。教育の考え方の違いが良くわかりました。また、椅子ではなく床に座って授業を受けるなど、どちらかと言うと自由があるように感じました。

残りも少なくなってきたころ。その日は一緒にホームステイしている友達が僕のホームステイ先の家族と合流しての一日観光でした。

ワイルドライフパークという動物園でコアラやカンガルーと触れ合い、西洋の独特な歴史的な町並みを歩いて回ってきました。その日の夕飯のとき、ふっと脳裏をよぎったのは後2回しかこの場所で食べることができないということでした。僕は胸が痛みました。

やっと英語が少しずつ聞き取れ、相手の言いたいことが理解できるようになり、受け答えが初めのころより良くなってきたところでお別れとは、結構もったいないと思いましたし、悲しみをも感じました。

僕はこのホームステイで、英語は体で感じて初めて身につけていくのだとわかりました。

また海外に行く機会があれば是非行きたいと思います。

自分への挑戦

三郷中学校 3年6組 塚田 亜純

私はこの十日間のホームステイで多くのことを感じ、学ぶことが出来ました。私にとって異国の地での生活は、驚きと発見で溢れていました。その中でも現地の学校と日本の学校の違いに、とても驚きました。

私は二年生のクラスに入りましたが、そこでは毎朝全員が輪になり、祈りを捧げていました。誰一人話をする人はいなく、落ち着いた雰囲気でした。ミサが終わると、プロジェクターを使った授業が始まりました。どの子も映し出された画像の近くにすばやく移動します。先生が問題を出すと、日本ではありえないほど積極的に発言をしていました。日本のように自分の席が決められているのではなく、自分の見やすく、聞きやすい場所で授業を受けられるスタイルはとても良いなあと感じました。自由な発想で、しっかりと自己表現ができることを身に付けられる環境でした。事前学習で、オーストラリアの子供たちは、おやつを食べながら授業を受けると聞いていましたが、実際に大きなリンゴを丸かじりするのを目の当たりにすると、とても驚いてしまいました。でも、床に落ちた食べカスをあまり気にしない様子は、残念に感じました。

クラスの子が私に絵本を読んでくれました。文章は短かったけれど、とても勉強になりました。どの子もたくさん話しかけてくれて、私が聞き取れない時でも、何度も伝えてくれました。私も自分から話しかけコミュニケーションをとることができました。過ごしていく中で、徐々に自分の耳が英語に慣れてきたのか、聞き取り易くなってきたことに気がつきました。

今回のホームステイで、伝えようとする気持ちがとても大事だと感じました。文法がめちゃくちゃで、どう伝えたら良いか分からず止まってしまっても、ファミリーの皆さんは優しく聞いてくれました。伝えたい気持ちさえあれば、理解してもらえると感じました。ファミリーの皆さんへ折り紙で鶴を折った事、お好み焼きを作って食べたことは、とても喜んでもらえて嬉しい出来事でした。

このオーストラリアでの経験は私にとって、一生の宝であり、誇りです。自分に自信もつき、これからも様々なことに挑戦していきたいと思います。この貴重な十日間を無駄にしないように、英語の勉強により力を入れ頑張り、いつかまたホームステイに行きたいと強く思います。将来はグローバル化に貢献できるような人に成長したいと思います。

人の温かさに触れた十日間

三郷中学校 3年6組 小谷 雪乃

初めてのホームステイ。今思うと、出発する前の緊張や不安が嘘のように充実した十日間を送ることができました。その十日間の中で、私はたくさんの発見をしました。

まず感じた事は、オーストラリアの人たちはとても仲が良く、人とのつながりを大切にしているということです。私がホームステイをした二つの家庭の両方で、友人やおじいちゃんの誕生日があったのですが、両方の家庭で、電話で「Happy Birthday」を歌うサプライズをされていてびっくりしました。その他にも、ご近所さんと一緒に食事や買い物に行ったり、子どもたちも、放課後、毎日のように友達と遊んだりして、家族や親戚だけではないつながりを見ることが多くありました。

次に、日本に比べて、オーストラリアの子どもたちは、自分で考えて動くことができるということが分かりました。ホストスクールでも、やるべきことが終わったら、自分からできることを見つけて行動していました。日本の場合、分からないことがあったら人に聞くことが普通ですが、ホストスクールに通う中で、「まず、自分でやってみる」ことが大切なのだとわかりました。また、授業を受けている時もみんなが自分の意見を持っていて、それがどんな意見でも考え合ったり話し合ったりする環境があっただけいいと思いました。

その他にもたくさんの発見、経験ができましたが、十日間を通して一番感じることができたのが「人の温かさ」です。行く前は言葉が通じるか心配していたけれど、実際に行ってみたら、言葉の壁なんてありませんでした。みんなが「通じたい」「伝えたい」と思っていれば、言葉の壁なんて無くなる、大事なものは「英語が伝わるか」ではなくて、「気持ちが伝わるか」なのだとわかりました。

このような貴重な経験ができたのも、安曇野市教育委員会様、株式会社テヅカ様、ALTの先生方、加藤先生、ホストファミリー、そして、家族の支えがあったからです。本当にありがとうございました。

ホームステイ最後の夜、ホストファザーの Shane が私に言いました。「中学生で、こんなに離れた所に行くことはとても勇気がいる。いつまでもその勇気を持ち続けて、夢を実現させられるように頑張っただけね。」

Shane は今でも、夢を実現させる、という気持ちを持ち続けているそうです。

私も、自分の夢に向かって挑戦することを恐れずに、また、諦めずに追いかけるようにしたいです。今の私の夢は、今度は一人でオーストラリアに行き、お世話になったホストファミリーに再び会うことです。もっとオーストラリアのことを知りたいし、英語も話せるようになりたいです。実現できるよう頑張ります。

オーストラリアへ行って変わった自分

三郷中学校 3年5組 野本 恵希

僕は、この十日間のホームステイによって、何となく変わった自分に気が付きました。海外へホームステイに行くんだ、と改めて考えた出発前、『本当に会話出来るのだろうか。オーストラリアの文化はどのくらい違うのだろうか。』とても心配でした。しかし、ホストファミリーとの最初の対面の時、ホストファミリーのアシュトンとジャラが「ヨシキ〜!」と呼んでくれました。嬉しい気持ちと同時に、その言葉があったからこそ最初から打ち解けることが出来て、ビーチでも仲良く遊ぶことが出来たと思います。

次の日から始まったステラマリス小学校での授業では、先生が子供たちに本の読み聞かせをしていました。日本では全部本を読み終わってから感想を聞く感じですが、そこでは先生が途中で質問をして、子供たちがその質問に手を挙げて答えるという形でしたが、びっくりしたのはほとんどの子供たちが手を挙げて答えようとしていることでした。日本では恥ずかしがったり、間違えるのを嫌がるせいかな手を挙げない子供がたくさんいます。でも、この学校では積極的に自分の意見を言おうとする子供たちがたくさんいて、活気に満ちあふれ、こんな授業が日本でもあれば良いなと思いました。

休み時間には、クラスの枠を超えて30人くらいの人数でサッカーを楽しみました。男子も女子も混じり合い、仲良くサッカーしたことは、とても楽しい思い出になりました。小学校に三日間通いましたが、最終日に「また明日もサッカーやろう。」と誘われた時、『今日で小学校へ来るのも最後なんだ。』と思うと、寂しく、まだ小学校に通いたいという気持ちがにじみ出てきました。サッカーを一緒に楽しんだというつながりで、最後にはハイタッチをして別れを惜しんでくれたことにとっても感動しました。

そんな学校での生活を通じて、初めは心配していた会話も、自分で驚くほどコミュニケーションを取ることが出来て、喋ることも聞き取ることもあまり苦労しなかったというのが事実です。「もう一度お願いします。」や「ゆっくりお願いします。」というリクエストに応えてもらったことも、会話が出来た大きなポイントでした。

また、日本との文化の違いに対応できるかも心配でしたが、こちらも取り越し苦労となりました。オーストラリアという違う土地に入れたからこそ感じることも知ること出来ました。自分から違う世界へ飛び込んでいくことは、勇気がいることですが、飛び込んでみなければ経験できないたくさんを経験できるように、さらに勉強して、将来、自分がやりたいことにつなげていけるように、いつでもアンテナを張って受信していきたいと思ったホームステイとなりました。

国境を越えてつながる

堀金中学校 3年2組 高山 和音

初めての海外。新しく経験したことが多すぎて、うまく表現ができません。しかし、私にとって忘れられない時間となり、最高の思い出となりました。

その中で、私は意志の強さの大切さを感じました。もちろん、英語力向上も目的だったのですが、正直、相手の言う事がわかればYes やNo、OK を使えば意志の疎通がとれました。しかも、ジェスチャーや画像だって使えば英語もそこまでいきません。

では、なぜ英語がなくても意思の疎通ができたのでしょうか。それは、そのとき「どうにかして自分の意思を伝えよう。」と強く思えたからだと思います。日本にいて、そのように思ったことはあまりありませんが、現地で各家庭に一人ずつ入って、英語しか伝わらない場所、自分しか頼れない状況に立たされたからだだと思います。日本語を英語に変えて伝えるのは難しく大変でしたが、伝えられた時は大きな満足感に浸ることができ、とてもうれしかったのを覚えています。

その他にもホストスクールである小学校でも、意志の強さの大切さを感じました。現地の小学生は先生の話が途切れるたびに先生に質問をします。しかも、それが5人から10人いて驚きました。一人ひとりから「私が一番最初に言いたい。」「先生、僕を当ててよ。」のような意志の強さを感じました。まだ小学生なのに、クラス全員積極的にスゴイなと思いました。私もこの積極性を見習わなければと思いました。

グローバル化するこの世の中で英語は欠かせないものになるでしょう。私はこのホームステイ事業で英語をたくさん学ぶことが出来ました。毎日、本場の英語の発音と隣り合わせで、英語でホストファミリーとお話が出来ました。伝えられないことがあると、「ああ、やっぱりまだまだだな。」と思ったり、「もっと英語を勉強して、たくさん英語でお話したい」と思えることができ、たくさんの刺激をもらえました。しかし、一番大切だと感じるのは「伝えよう」とする意志です。「意志を強く持てばできないことなんてないんじゃないか」と思いました。

これからの日常生活の中で、「伝えよう」という意志を強く持ち、自分の意見などをいろんな人に発信できるようになりたいです。すぐには無理かもしれませんが、時間をかけて少しずつ変わっていこうと思います。支えてくれた家族のみんな、安曇野市教育委員会の皆様、企画してくれたテヅカさん、税金で費用を負担していただいた安曇野市のみなさんや、この事業に携わったすべての皆さんに感謝して、この事業で学んだことを日々の生活に生かしていきたいと思います。

そして、将来は日本で開催される2020年東京オリンピックの言語ボランティアで誰かを助けたり、国境を越えて活動できる人になりたいと思います。

海外ホームステイで学んだこと

明科中学校 3年1組 関 穂乃香

私は、今回のホームステイを通して多くの事を学ぶことができました。その中でも、私が大きく衝撃を受けたことは次の二つです。

一つ目は、学校生活の違いです。授業は常に発言の連続でした。授業の発言はもちろんですが、先生が「誰かドアを閉めてきて」と言うと、手を挙げない子は一人もいませんでした。日本では、こんなに率先して行動するということがあまり見かけません。他には、お菓子を食べる時間があったり、休み時間が長かったりと、初めは戸惑うことでいっぱいでした。「こんにちは」「ありがとう」と話しかけてくれたり、絵を書いてプレゼントしてくれたり、たくさんの生徒とコミュニケーションをとることができ、とても嬉しく思いました。また、全校集会の様子についても驚きました。例えば、生徒が水泳大会で優勝したことや、休日に家族と出かけたことなど、日常のささいな出来事などを発表します。それにより、人前で発表することへの恥ずかしさがなくなり、全校のみんなから応援してもらえることで、頑張る力が生まれるのだと思いました。日本の学校でも、自分の意見や意志を周りの人に伝えられる授業の工夫や、環境作りをするのが大切だと思いました。たった三日間のステラマリスでの生活でしたが、私にとってとても充実した時間となりました。

二つ目は、文化の違いについてです。私のホストファミリーの子が7歳と4歳だったということもあり、二人とも夜8時には寝ていました。たくさん遊び、しっかり睡眠をとるからこそ、一日を全力で過ごせるのだと思いました。ホストマザーは、朝散歩に出るのを日課としており、忙しい日本の生活との違いも感じました。そして、オーストラリア滞在中、イースターホリデーがありました。イースターホリデーの二日間は、朝食にクロスバンというパンを食べました。一番驚いたのは、イースターの日の朝、ベッドの横にチョコレートのプレゼントがあり、庭にあるチョコレートホストファミリーの子と一緒に探したことです。クリスマスのようなイベントで、みんなと楽しむことができました。

他にもたくさんの違いがありましたが、人の温かさは言葉が違っても伝え合えるものだと感じました。ホストファミリー、学校の先生や子供たちの優しさはもちろん、近所の家の人々が「こんにちは、学校はどうだった？」などと声を掛けてくれました。温かい人が集まる街は、まるで街全体が一つの家族のように感じました。

このホームステイでは、たくさんの事を学び、文化・自然・環境の違いに気付くことができました。オーストラリアで十日間を過ごし「英語が話せるようになった」と自信をもって言うことはできませんが、今回の経験で英語を上達させたい、また海外に行っているいろいろな経験や知識を積みたいという思いが強くなりました。

このような貴重な機会を与えてくださった安曇野市教育委員会の皆様、テヅカ様、いつも支えてくれる父と母、この事業に携わってくださった全ての方々に本当に感謝しています。そして、多くの生徒が、私たちのように経験できることを願います。

私は、このホームステイの経験を、これからの自分の未来に繋げていきたいと思っています。

～旅の記録～



期待と不安の中、メルボルンへ向けて出発しました。



【メルボルン市内散策】

ホストファミリーとのウェルカムパーティまでの間、市内を散策しました。

メルボルンは、住みやすい街ランキングで、「5年連続世界一位」に選ばれています。

英国色が残る重厚な建物と、モダンな高層ビルが混在し、400以上の公園がある緑豊かな街です。



【ウェルカムパーティ】

ホストファミリーのフレンドリーな笑顔、大きなハグに迎えられ、緊張はすぐ解けてしまいました。

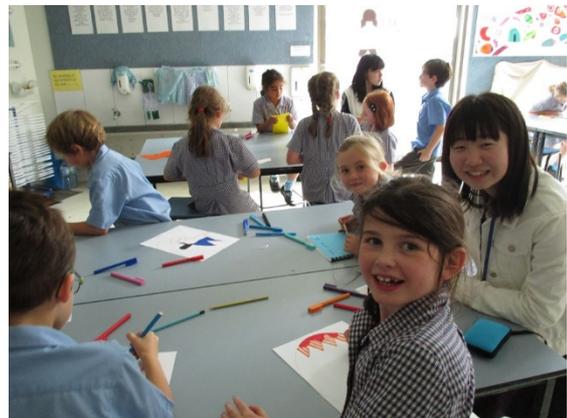


ホストマザーの手作りケーキ・
コアラのぬいぐるみで迎えてくれました。

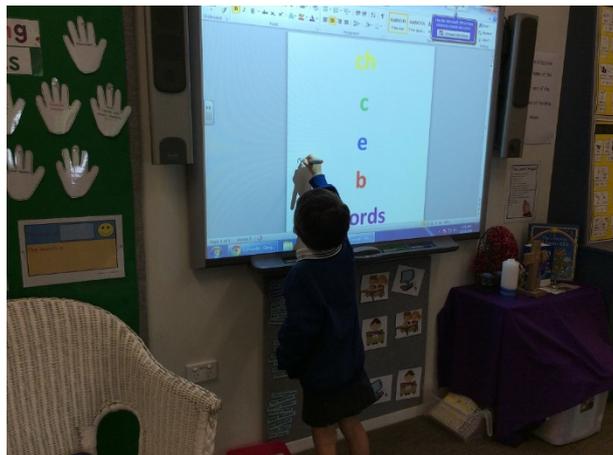


【ホストスクール Stella Maris Primary School】

ホストスクールの小学校へ 3 日間就学体験を行いました。



各クラスで児童達と一緒に授業を受けました。Stella Maris の子供達は好奇心いっぱい！
たくさん話しかけてくれるので、「英語」で話さずにはいられません。最初は早口で聞き取れなかったけれど、話せば理解するまでちゃんと聞いてくれる。そんな子供達に囲まれながら、コミュニケーションの大切さ・楽しさを学びました。



各教室には、パソコン、iPad、スマートボードが完備されています。



休み時間には外へ出て、児童達と一緒に遊びました。
一緒にサッカーやバスケットボール、縄跳びをして、
子供達との距離が縮まりました。



【お世話になったホストファミリー】



横川伊吹さんとボルガー家の皆さん



小谷雪乃さんとフェアリー家の皆さん



赤羽未彩さんとロッカ家の皆さん



入山未久さんとコースス家の皆さん



関穂乃香さんとウィーラー家の皆さん



塚田亜純さんとテイラー家の皆さん



野本恵希さんとピバリッジ家の皆さん



西尾遥さんとガンディッシュ家の皆さん



須山ミレナ益美さんとウィルソン家の皆さん



小林あかりさんとレイ家の皆さん



鈴木日花里さんとヒルズ家の皆さん



高山和音さんとコリンズ家の皆さん



森下琴未さんとボルトン家の皆さん



増田敬翔さんとケニー家の皆さん



全校集会で修了証を授与して頂きました。

日本語のクラスで、書道や折り紙を教えました。



日本の学校についてのクイズ、安曇野市の学校を DVD で紹介して、とても盛り上がりました。



【Parkdale Secondary College パークデイル セカンダリーカレッジ】



Secondary College は、日本の中学と高校が一緒になった学校です。校内には本格的な劇場があり、パフォーマンス・アーツ(舞台芸術)の授業を通して、感性や自己表現力を高めています。



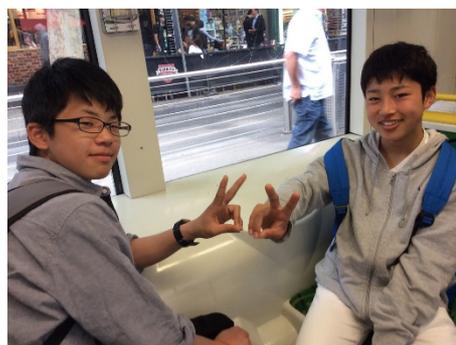
日本語を教えている先生や、日本から実習生として来ている大学生の方との交流会をしました。オーストラリアに来て感じた事や日本との違いなど、為になるお話を聞くことが出来ました。



イギリスから来た観光客の方と一緒に写真撮影。



市街ではトラムを使って移動しました。



【メルボルンの台所 Queen Victoria Market】

日本では見かけない大きさの野菜や珍しい果物などを見て、日本との違いを知ることが出来ました。



【デートリップ Wildlife Park & Sovereign Hill】



Wildlife Park ワイルドライフパーク
放し飼いにされている 100 匹以上のカンガルーや、
コアラなど、オーストラリア固有の動物たちを間近で
見る事が出来ました。





Sovereign Hill ソブリン・ヒル ゴールドラッシュ当時の町並みを再現したテーマパーク
当時の衣装を着たスタッフと一緒に記念撮影 砂金も探しました。



たくさんの笑顔と優しさでサポートしてくれたホストファミリーと最後のお別れです。

Thank you Australia



【St Kilda -セントキルダ-】